

鹿児島県がん教育モデル校としての取組

伊仙町立犬田布中学校

- 正しい知識を身に付け、健康や生命の大切さについて主体的に考えるがん教育の実践
- 取組内容

令和5年12月4日～12月15日に『いのちを考える週間』として様々な視点から学ぶことで自他のいのちの大切さに改めて気づき、これからの生き方について考えることができるように取り組んだ。

取組	内容	様子
(1) 性に関する指導 令和5年11月27日 対象：全学年(各学年で実施) 指導者：外部講師	1年生『二次性徴と思春期の悩み』 2年生『生命誕生』 3年生『いのちの出前授業』	
(2) 自殺予防教育 (SOSの出し方に関する学習) 令和5年12月4日 対象：全学年 指導者：外部講師	<ul style="list-style-type: none"> 困難な状況に適応していく力(レジリエンス)について SOSを出すことの大切さについて レジリエンスを助けるストレスコーピングについて 自尊感情を高めるスキル(リフレーミング)について 	
(3) 全校朝会 令和5年12月6日 対象：全学年 指導者：校長・養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> いのちの大切さや1人1人が大切に育てられたことに関する話 いのちに関する絵本の読み聞かせ 	
(4) 学校保健委員会 令和5年12月8日 対象：保護者 指導者：外部講師	<ul style="list-style-type: none"> 『エゴグラム』について エゴグラム分析を通しての自己理解 家族の特性理解と上手な付き合い方 『いのちを考える週間』の取組内容を保護者に報告 	
(5) がん教育公開授業研修会 令和5年12月11日 対象：3年生 指導者：寺村勇次郎教諭 三好 綾さん (NPO 法人がんサポートかごしま理事長)	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業 全体研修会 授業に関する質疑応答 グループ協議 指導助言 指導講話 	
(6) 『いのち』に関する書籍の展示 生徒会保健部による掲示 赤ちゃん人形の展示 全校生徒による掲示物の作成	<ul style="list-style-type: none"> 『いのち』『人権』『いじめ』に関する絵本などの展示 保健部がまとめた、自殺に関すること、LGBTQに関すること、デートDVに関する掲示物の掲示 	
(7) 『いのち』に関する音楽	給食時間に『いのち』に関する音楽を流し、情操教育に係る意識を高めた。	

3 成果と課題(成果○, 課題●)

- 事前事後のアンケートから意識の変化が見られた項目が多々あった。特に「がんの治療法には手術療法しかない」に対して事前では誤り73.2%が、事後では誤り97.6%となった。また「がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う」に対して「そう思う」の割合が事前では58.5%に対して、事後では82.9%となった。「がんになっても生活の質を高めることができる」に対して、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の割合が、事前では53.6%に対して、事後では75.6%となった。このことから、がん教育において正しい知識を学ぶことの大切さと、がんに対する意識の変容につながったことが分かる。また、アンケート結果から認識の誤りがあった項目については事後指導を行うことで正しい知識を身に付けさせることができた。
- がん教育の授業の感想に「いのちが大切なもの、がんはとても怖くて苦しいけど一生懸命生きている人がいることを知りました。」「かみづるさんはもうこの世にはいないけど僕たちがしっかりといのちのバトンを受け取り、がん患者さんも楽しく暮らせる世の中にしたいと思いました。」などががんの知識を理解するとともに、いのちの大切さに気づき、また、がん患者さんと共に生きていきたいという感想が多く見られた。三好さんの言葉を1人1人がしっかりと受け止めていたことが感想からうかがえた。
- これまでもいのちを大切にするための教育に取り組んできたが、『がん教育』を取り入れたことで生徒の『いのちの大切さ』に対する意識がより深まった。
- 公開授業後の全体研修会では徳之島3町から集まった多くの先生方が学校の現状と課題を話し合い、今後の「がん教育」の在り方について熱心な意見交換が行われ、「がん教育」に対する意識の深まりが感じられた。
- 離島では、がん教育において外部講師の活用が課題となっている。公開授業を通して外部講師による対面授業のよさを認識し、今後徳之島全体で講師派遣を行えるように予算を確保したいという意見が多く出た。
- がん教育の教育課程への位置付けや授業時数の確保が課題としてあがった。